

cue

02



特集

素材の経年美



物心ついた頃から、親父は毎日酒に酔って暴れていた。

母親とケンカの毎日…。

幼稚園ぐらいの僕は親父が暴れそうな時、

母親とケンカが始まりそうな時、毎日、毎回

「コップを落としたり」

「お皿を落としたり」

「わざと椅子からひっくり返ったり」

そうすると注意が僕の方に向きその場が収まった。

そんな傷が僕の椅子の周りには山ほど…

嫌な思い出だけど…なんか、懐かしい。(^_^;)

床の記憶
MESSAGE FROM FLOORS.

経年に使われるプラス言葉

経年で良くなるものについて使われる「言葉」って実は結構あるんです。こちらでは代表的な言葉をご紹介いたします。

【ヴィンテージ】

本来は、ワインにおいて、ぶどうの収穫から醸造を経て瓶詰めされるまでの工程を表す言葉で、それが、当たり年のワインを指すようになり、そして年代物の楽器や車、カメラ、衣料品などの希少品の意味に用いられるようになりました。単に古いだけではなく、古くて希少価値が高いものに対して使われます。



【プロカント】

「美しいガラクタ」という言葉が語源となっており、ものを大切に永く使う文化が根付くヨーロッパにおいてアンティークほどの歳月は経っていないものの、人々に愛されてきた美しい古道具を意味します。



【パティーナ】

まさしく「経年変化の楽しみや味わい」という意味のラテン語で、普段着のように心地良い住宅を設計することで人気の建築家・中村好文氏もパティーナを自身の建築の目指すものとされています。



【シャビーシック】

「古ぼけて粋な」という意味。デザイナーレイチェル・アシュウェルが提唱し始めた今人気のインテリアスタイルで、使い込まれたように傷が付いていたり、塗装が剥げかかったような、古いけど味があるアンティーク家具などを取り入れた、クラシックでいてエレガントなスタイルを指します。



経年 素材 の

特集

「時を経ることに美しくなる。」建物に
とっても人にとっても理想の姿ですね。
住宅が経年でどのように変化していくか。
そこにはその住宅に使われる素材が大き
く関係している、ということは想像に難
くありません。あらゆるものは時を経る
ことで変化します。その変化の仕方には、
劣化するものもあれば、美しく価値を高
めるものもあります。時を経ることに美
しくなると言えば天然素材。今回は、革、
石、瓦、木と、経年美をもつ素材を取り上
げながら、その魅力に迫りたいと思います。



「三十三間堂」通し矢の廊下。
経年変化した木床の表情が風格を感じさせる。



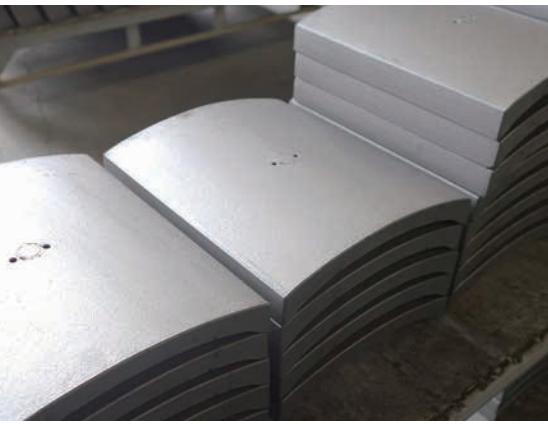
プレス後に形を整える職人さん。



リフトで次の工程に運ばれていく素地(しらじ)。



経年で黒さを増しつつ出来る色ムラが独特的の味わいを醸し出す。
左側が経年変化後の瓦。



出荷を待つ完成した瓦。

1400年の歴史を持つ「いぶし瓦」

日本的な住宅の屋根材といえば粘土瓦です。

瓦が日本に伝わったのは飛鳥時代で、初めて瓦が使われたと言われる元興寺（当時の飛鳥寺）には、今も1400年前の瓦が現存しております。その耐久性の素晴らしさを証明しています。瓦にも色々と種類がありますが、なかでも神社仏閣など伝統的日本建築や高級住宅に使われるのが「いぶし瓦」です。このいぶし瓦も経年変化が楽しめる素材です。

いぶし瓦の製法は、無酸素状態に密閉した窯の中で煙を発生させ、いぶすことによって、炭素が多孔質の粘土素地に浸透し蒸着されて皮膜を形成させるというもの。ですから、いぶし瓦は、炭素本来の色である黒っぽい灰色、いわゆる「いぶし銀」をしており、その表面には、炭素の結晶子が乱反射することによる独特の光沢が生まれます。時を経ることで表面は黒っぽくなつていくのですが、その時に色ムラが出来ます。これは、窯の中の圧力が一定でないことから発生するもので、従来はこのムラを出来るだけ抑える技術開発をしてきたそうですが、近年は逆に、いぶし瓦ならではの魅力として求められることが多いようです。ある建築家のオーダーではこの色ムラをわざと出すためにヤスリを掛けて仕上げ、納品した現場もあるのだとか。

〈取材協力／野水瓦産業株式会社〉





大谷資料館の地下に広がる採掘場跡。テレビゲームのダンジョンに入り込んだような幻想的な空間が広がる。B'zやGLAYのプロモーションビデオや映画の撮影にも数多く使用されている。



現帝国ホテルロビーの壁面彫刻レプリカ(制作:渡辺哲夫)

フランク・ロイド・ライトに見初められた「大谷石」



石

フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテルに採用し、一躍有名になった「大谷石」。大谷石は、栃木県宇都宮市大谷町で産出される凝灰岩（火山灰が固まつたもの）です。耐火性にすぐれ加工が容易、そして比較的軽いことから、古くより石垣や敷石など建築石材として使われてきました。古墳時代には、横穴式石室として利用されていたそうです。

大谷の町に入ると至る所に大谷石を使つた堀が見られます。また山間の道路沿いには大谷石の岩肌が露出しており莊厳な雰囲気を醸し出しています。大谷石の特徴の一つは素朴で柔らかく温かみのある質感です。表面の加工によって風合も変わるので、どのような素材とも調和を取りやすいことが持ち味です。

そしてもう一つの特徴は経年による色変化です。採掘時は水分を含み青みを帯びた色は、乾燥していくにつれて白くなり、さらに外気に触れることで酸化し、やがて茶褐色へと変化します。この枯れた色合いには独特的の趣があり、経年によって変化する表情が、永く愛されてきた大谷石ならではの特徴となっています。

〈取材協力／大谷資料館〉

革

経年美の代表選手「革」

経年変化で美しくなる代表的な素材に革があります。革製品は経年によって、色、ツヤ、馴染み方が変化していきます。その仕組みは科学的にはつきりと解明されているものではないですが、一般的に考えられる色変化が起こる主な理由は、革をなめす時に使われるタンニンの化学変化によるものです。タンニンは植物から採取されるもので、お茶などにも含まれます。タンニンは時間が経つと酸化によって赤くなる傾向と黄色っぽい茶色になる傾向があります。

動物の皮膚である「皮」は、そのままにしておくと腐つたり、あるいは水分が抜けることでカチカチに固くなつたりしてしまいます。それを防ぎ長期間使える「革」という素材にするための工程が「なめし」です。なめしの方法には大きく2種類、「タンニンを使う『タンニンなめし』」と化学薬品を用いる「クロムなめし」があり、色が大きく変わるのは主にタンニンなめしの革となります。

色変化のもう一つの理由は、なめした革に染

み込ませる油。軟らかさを保つために使われるこの油も酸化すると色が濃くなります。また使っていくうちに付く手脂も同様で、革は時間が経つほどに色が深くなり、さらに艶が加わることで、得も言われぬ風合いが醸し出されています。

いわゆる「革製品」には、今お話ししてきた天然皮革のものと別に、人造皮革のものもあります。人造皮革には、大きく合成皮革と人工皮革の2種類があり、合成皮革は布地をベースに、人工皮革は不織布をベースに、それぞれポリウレタンなどをコーティングしたものになります。これらの人造皮革は、ランドセルなど軽さ、耐水性が求められるものには適していますが、経年でいわゆる「味」が出てくることはありません。やはり、鞄や財布などの革製品を「永く愛着を持つて使いたい」方には、美しく変化する天然皮革「本革」のものが求められるようです。

（取材協力・写真提供／土屋鞄製造所）



なめして色付けされた革。製品に合わせてカットされる前の状態。



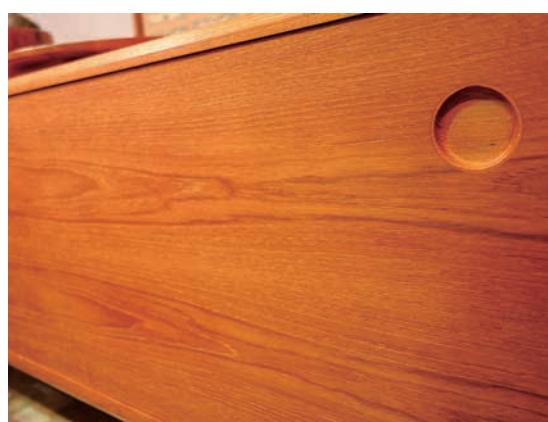
最後に天然木です。天然木も経年美を持つ素材の代表格です。削りたての木肌の美しさも魅力的ですが、経年によって艶色に変化した天然木のヴィンテージ家具などは新品にはない風格を感じます。海外のものに限らず、日本の歴史的な建造物の内装や造作、指物なども同様に、永い歳月によってでしか得られない美しさを持っています。

木の経年美は日焼けによる色変化によるもののが大きいでしょう。日焼けと言つても人の日焼けとは仕組みが違います。光があたることによって、木材に含まれるリグニンや、色を構成している抽出成分が化学変化を起こし、別の色を持った成分に変わるため起こるものです。さらに、ヴィンテージ家具などでは仕上げに使われている塗料の色変化も加わり、木独特の味わいが生み出されています。

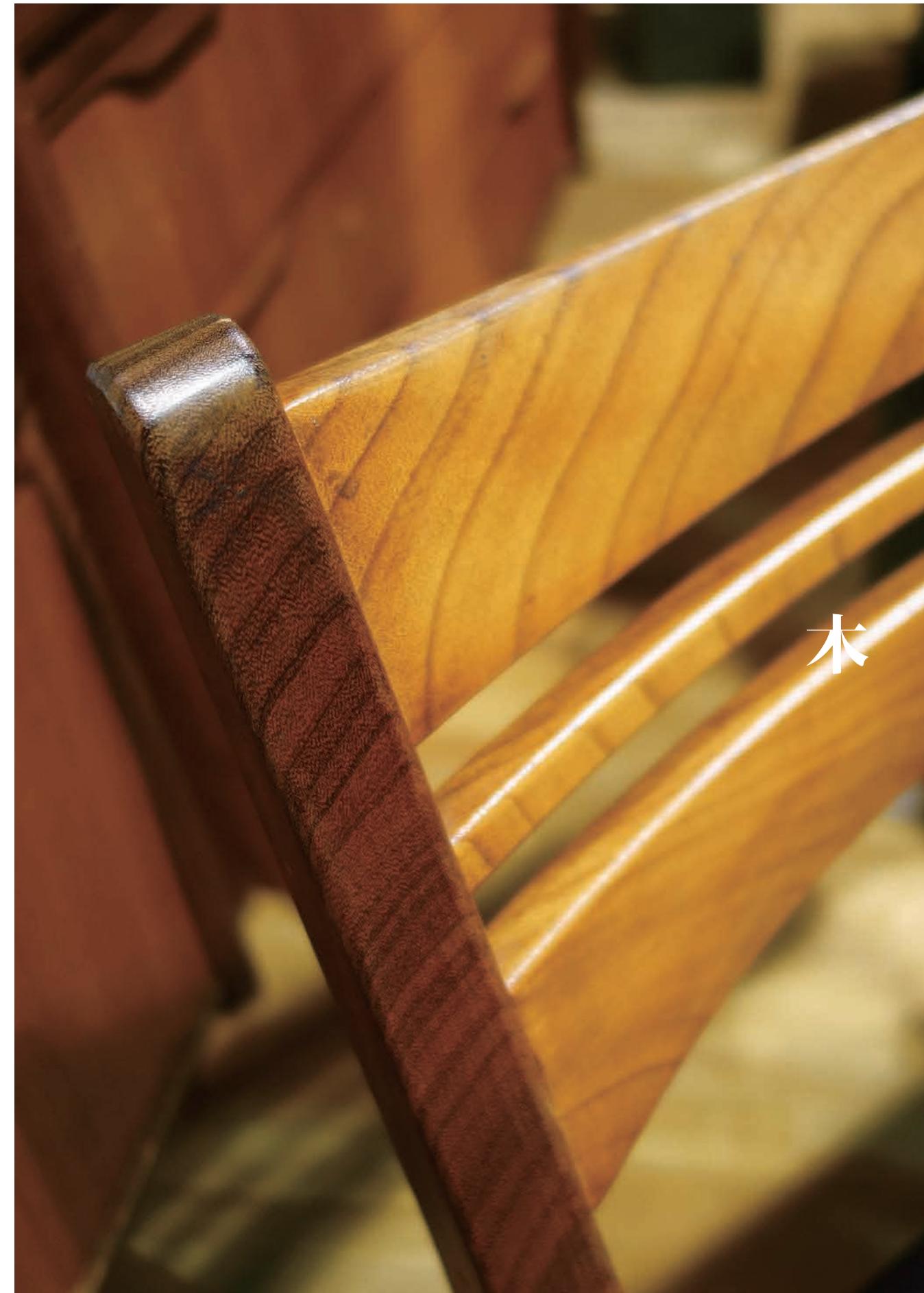
木の色変化は樹種によって様々で時間が経つほどに濃くなるものもあれば、淡くなるものもあります。同じ樹種でも個体によって、また、白太、赤味など部位によつても変化の仕方が異なるのも天然ならではのものです。

（取材・写真協力／株式会社シンプルハウス）

ヴィンテージ家具と天然木



取材させて頂いた「シンプルハウス」のヴィンテージ家具は、オランダ・デンマーク・フィンランドなどから買い付けられてくる。状態の良い家具はそのまま店頭に並ぶことがあるが、キズや剥がれなど傷みのある場合は熟練の職人の手によるリペアの工程に入る。永く使うためにはやはりメンテナンスが大切です。



木

一緒に歳をとることを 愉しむことができる素材

天然素材と人工素材

このように天然素材は時間経過によって表情を変えていきます。それは金属でも同じ。

訓読みで「あかがね」と呼ばれる「銅」は、赤茶色から緑色に変わり、鉄「くろがね」も同様に、黒色だったものが、やがてあかく錆びていきます。

人工素材が経年により美しくならず劣化すると言われる理由は何でしょう。それは、人工素材が自然素材の代替として、「似せて」使われることが多いからだと思われます。大理石の表情に似せたプラスチック、天然木に似せたビニールシートなどは、時間とともにまさに「化けの皮」がはがれ、本来の素材の姿へ戻っていきます。

一方、自然素材はどこまでいっても、その素材そのもの。むしろ、時間とともにその内面にある味わいが表面に醸し出されたります。きっと、素材はその素材らしく、本来の表情や持ち味を素直に活かせる使い方をしてあげるべきなのではないでしょうか。例えばプラスチックでも、素材をそのままに使ったカルテルの家具やームズのチエアなどは、古くなつても、その古さを味わいとして感じることができます。

(文・西村)

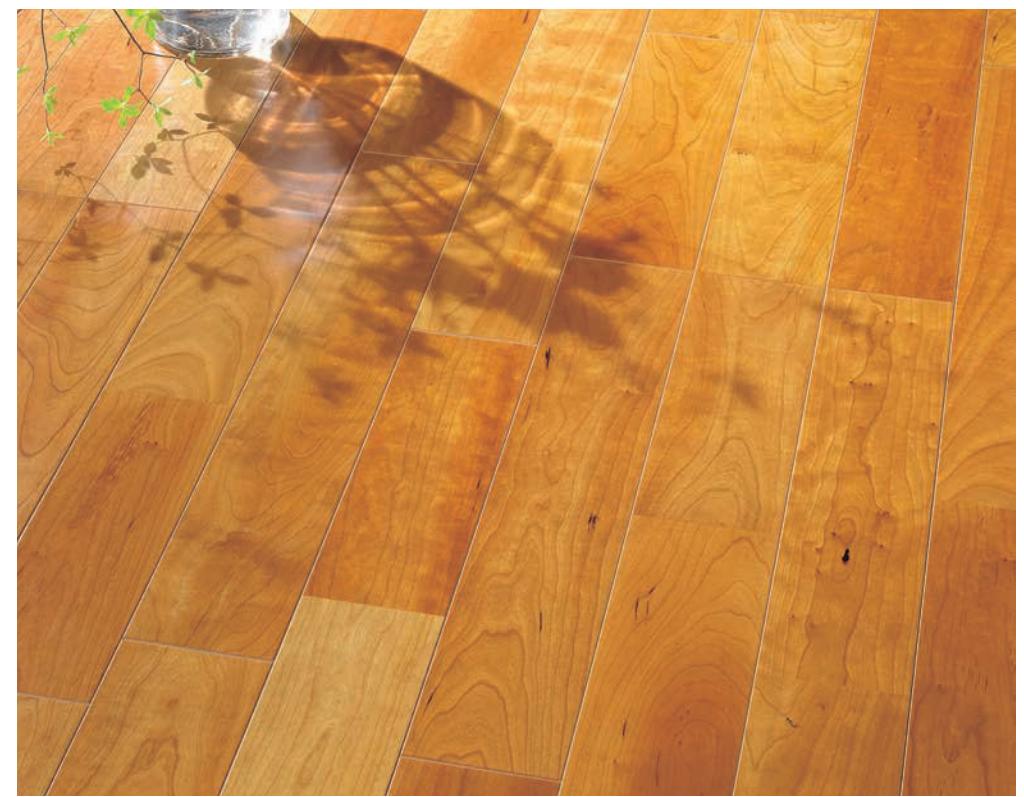
経年美と愛着

天然素材の中でも特に木や革は、直接触れる小物や家具、住宅の内装など比較的身体に近いところで使うことが多い素材です。木も革も、もともと生きていた素材なので、人は相性の良い、親和性の高い素材です。だからでしょうか、経年によつて美しくなつていく天然木や本革で作られたものには、より「愛着」を感じることが出来るよう思います。

戦前の日本には「素材を語る文化」があったと言われます。天然素材には、その背景に歴史や物語があります。そして生き物であつたからこそ、唯一無二オンリーワンの個性を持つっています。このことも、愛着を持てる、つまり感性のレベルで価値を感じることが出来る理由なのではないでしょうか。経年変化を愉しむことが出来る、それは、「一緒に歳をとつていくことを愉しめるということ。」これが天然素材、とりわけ経年美を持つ素材の最大の魅力だと思います。



ブラックチェリーの床(経年変化前)



ブラックチェリーの床(経年変化後)



知つトコ豆知識

ワックスがけって、必要な？



日本でフローリングにワックスが使用されたのは昭和30年代。当時のフローリングは耐久性に限界があり、表面を補強するためにワックスがけが必要でした。しかし今日では塗装技術の進歩により、ワックスを必要としないフローリングが主流を占めています。

ワックスには、フローリングの塗装面を細かな傷から保護する（ワックスの皮膜には細かな傷は付きます）、また艶を上げるといった働きがあります。ただし、フローリングが本来持っている風合いを損ねてしまうことがあります。また、時間がたつと汚れてくるので、一度かけると定期的に剥離してかけなければいけないもの」「メーカー推奨ワックスであればかけても良いもの」など様々ありますので、ワックスを使う場合は必ず各フローリングメーカーのお手入れ方法を確認してくださいね！

（文・田中）

人の日焼けと木の日焼け

特集
コラム
2

同じ、日焼けという言葉を使いますが、そのメカニズムは全く違うものです。

人の日焼けが「皮膚のやけど」であるのに対して、木の日焼けは「木材成分の化学変化」です。

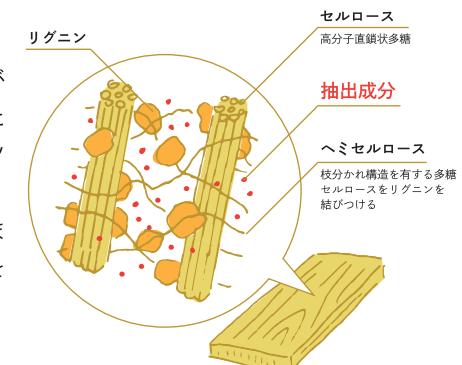


木材の日焼けの傾向は樹種によって、また同じ樹種でも木取りの場所によって変わります。写真はブラックチェリーの床。

木の色が変化する理由

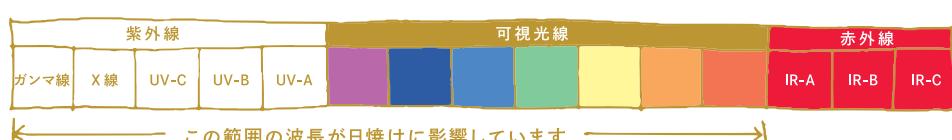
木材はセルロース・ヘミセルロース・リグニンの3種類で大部分が構成されています。しかし、木材の色を構成しているのは成分としては極僅かなステロイド・脂肪酸・高分子ポリフェノール・アミノ酸などの化合物の総称である抽出成分なのです。

つまり日焼けなどで色が変化する原因是リグニンも一部関係しますが、ほとんどはこの抽出成分であり、光を吸収し、科学変化を起こすことで、木材の色を変化させているのです。



抽出成分を変化させる光

光は大きく紫外線・可視光線・赤外線に分けられます。一般的に濃色化するのは紫外線の影響が強く、淡色化は可視光線の影響が強いと言われる場合もあります。しかし、原因となる抽出成分は同じ樹種でも含有率の個体差が大きく、温度や湿度の条件なども加味されるため、まだまだ明確な分け方が難しいとされています。



「コンネル」
「二二ザーン」
「キーデー」
「ケー」

connel coffee

ストリーム(流れ)を感じるカフェ



デザインオフィスnendo代表
デザイナー
佐藤オオキ

2006年Newsweek誌「世界が最も尊敬する日本人100人」に選出、その後Wallpaper*誌(英)、ELLE DÉCOR誌をはじめとする世界的なデザイン賞の数々を受賞。

東京・港区にある「草月会館」は、日本の近代建築を代表する建築家、丹下健三の設計によって1977年に竣工した建物です。昨年7月、その草月会館の2階に新しいカフェがオープンしました。このカフェのリノベーションを手掛けたデザインオフィスnendoの佐藤オオキ氏にお話を伺いました。

デザインを手がけられた経緯を教えて下さい。

草月会館にオフィスを移転する際に、以前は「レストラン薔薇」として営業されていた2階スペースのオファーをいただき、自社のオフィススペースとあわせてデザインさせていただきました。様々な人たちとコラボレーションを行っていきたい、という思いもあり、nendoが運営母体となってカフェをオープンすることにしました。

コンセプトとデザインのポイントを教えて下さい。

「丹下健三とイサムノグチと共存するカフェ」がコンセプトになります。

1977年に建築家・丹下健三によって設計された当時のインテリアがまだ残っていることや、赤坂御所や高橋是清翁記念公園、そしてイサムノグチが手かけた石庭への眺望が美しいことから、天井や壁面には触れず、新たな造作壁も建てることなく、床と家具のみをデザインすることにしました。床にはフローリング「stream」を使用し、2つに分かれた空間を流れるように繋ぎ、カウンターの側面も同じフローリング材で仕上げ、さらに一体的な印象が生まれるようにカウンターや階段のフローリングの目地を全て床と揃えています。

ネーミングの由来は?

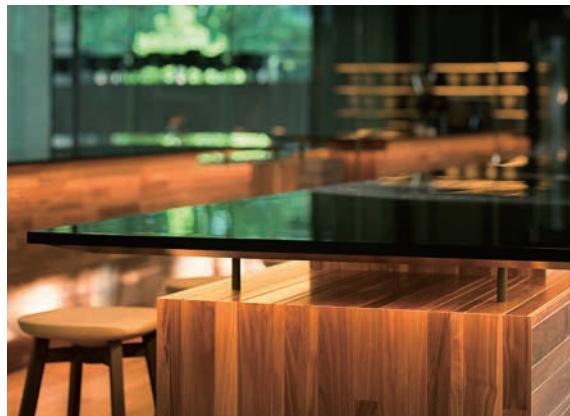
「粘土」を「捏ねる」というところからきています。また、様々な人たちとの有機的なコラボレーションを行つていったい、との思いから、名前を「connel」(=様々な要素を「こねる」)としました。

最後に1言お願いします。

天井や壁、カウンターのグレーペンミラーの反射や映り込みによって、外の公園の緑や通りを走る車が室内に溶け込んでいるかのように見える空間です。その1日の時間の移り変わり、さらに季節の移ろいの中でも映り込みによって空間内が変化していく様子も、ぜひお楽しみください。

(取材・西村)

写真:太田拓実



カウンターに映り込む緑が美しい。



connel coffee (コネルコーヒー)

場所: 東京都港区赤坂7-2-21 草月会館 2F

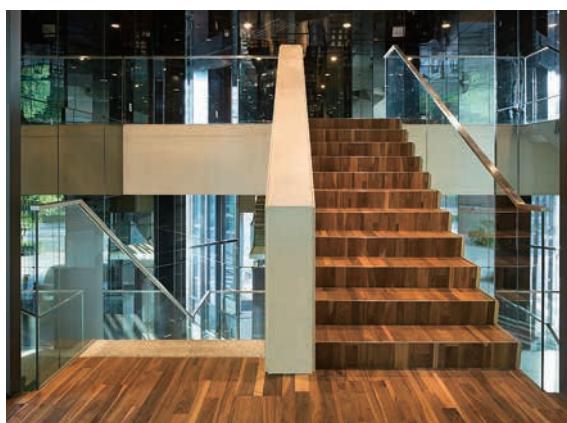
営業時間: 8:00~19:00(平日のみ営業)

TEL: 03-6434-0192

www.nendo.jp/jp/works/connel-coffee/



ロゴはnendoのロゴから「n」を抽出し、グニヤリと曲げるようにして2つの「c」になっている。



階段の踏み面、蹴込み部分も全て「stream」。
上のフロアのLiveNaturalプレミアム3Pタイプに繋がる。



床にはnendoがデザインを手掛け、昨年のミラノサローネでコンセプトモデルを発表した「DESIGN PREMIUM stream(スリムタイプ)」のブラックウォルナットを採用。カウンターの壁面にも同じものを使い、全て目地を通したこだわりの空間。

エレクトリックベース誕生

1940年代迄はコントラバス(ウッドベース)が使われていました。しかし、ポピュラーミュージックの浸透や音楽ホールの大規模化により、様々なミュージシャンから「ツアー時の持ち運びが大変」「もっと大音量が欲しい。」等の要望により、1951年に最初のエレクトリックベース「プレジションベース」がフェンダー社より発売されました。

エレクトリックベースの王道ジャズベース

今では数多くのエレクトリックベースが発売されていますが、1960年の発売以来「プレジションベース」とともに世界中のミュージシャンから愛され続けているのが「ジャズベース」です。

「ジャズベース」は、その名前からJAZZ用のベースだと思われがちですが、その設計意図によって非常に多彩なサウンドを創り出す事が可能で、ジャズ・ロック・ソウル等、実に様々なジャンルの音楽に対応する事が出来ます。

ジャズベースに使われている木材

「ジャズベース」のフォルムはその完成度の高さから発売以来変わることはありますが、使われている木材は製造された時期によって大きく2つに分類する事が出来ます。

1960年代は、ボディーにはアルダー、ネックはメープルを基本とし指板にはローズウッドを貼り合わせています。

アルダーは加工が容易で、音質は癖が無く非常にフラットで中音域得意としています。又、指板にローズウッドを使う事で温かみのある自然な音となります。

今でも絶大な人気を誇る「ビンテージトーン」が正にこの音で、ジャコ・パストリアス(Weather Report他)、ジョン・ポール・ジョーンズ(Led Zeppelin)が、この時代のジャズベースを愛用していました。

1970年代になるとボディーにはアッシュが使われるようになります。アッシュはアルダーに比べて木質は硬く重量も重いのですが、バランスに優れた深みのある音になります。

更にメープル指板のネックと組み合わせる事で、音の立ち上がりが良くなり輪郭もはっきりとした音質となります。アッシュには綺麗な杢目が出る事からクリア塗装が施されています。この時代の「ジャズベース」はスラップ⁽¹⁾得意とするミュージシャンからの支持が多く、代表的なミュージシャンがマーカス・ミラーです。

更に近年の「ジャズベース」には5弦⁽²⁾仕様やアクティブ回路⁽³⁾を搭載したタイプも加わり、これからも時代とともに進化し続けていくことになるでしょう。



[左]コントラバス(ウッドベース)



[左]ジャコ・パストリアス(Wikipediaより)

(1) 弦を親指、又はひとさし指や中指で弾く事で、フレットに叩きつける演奏方法

(2) ジャズベースを含めベースギターは基本4弦

(3) 本体にプリアンプ(音色を調整する)が搭載されている

産地・分布：北アメリカ

学名：Fraxinus americana

分類：モクセイ科トネリコ属

樹高：24~37m

樹径：0.6~1.5m

用途：家具、建築、合板、楽器

アッシュ



特徴的なはっきりとした木目。

アッシュ(ホワイトアッシュ)は北米に生育しています。日本では類似種がタモ(ヤチダモ・谷地ダモ)と呼ばれ、北海道から本州北部にかけて分布しています。

アッシュは、ウォルナット・チーク・マホガニーと共に四大銘木と呼ばれることがあります。比重は高め、重厚で強度が強く、衝撃にも強い木材です。木取りの効率がよく、加工性もよいので、古くから人間の暮らしの中で使われてきており、現代でも建築用材、造作材、家具、楽器、バット等の運動用具など、幅広く利用されています。

日本の住宅では2000年頃まで、その強度と色合いから、タモが多用されていました。集成材にして、階段の踏み板・手摺・カウンターの天板に一番多く使われていましたし、壁材に銘木合板を使っていた1960~80年頃の時代には、杼目使いのピーリング(75mmなど等間隔に溝が入った壁・天井用仕上げ材)で最も人気の高い樹種でした。

近年、フローリング使用の人気が高まっており、少し大柄のはっきりした板目に節が混じる、その独特の個性が人を惹きつけます。日本でよく使われてきたナラやクリの木目や色合いに似ており、和のテイストを感じさせます。(日本でのタモは、ケヤキやクリの代用材として活用されていました。)

着色しても木目が主張するので、散孔材では木目がつぶれてしまう白や黒っぽい色のカラー フロアにしても面白い材料です。

(文・脇)



上質な素材と上質な時を縫い創造する住まい

「ゆとり」をテーマに温かみのあるプロヴァンス風のインテリアと上質な素材にこだわったモデルハウス。

10年、20年先でも愛着の持てる住まいを実現したい、との思いで床・建具・キッチンを中心選び抜いた天然木素材をご採用。使い込むことによる味わいと共に、温かな思い出がひとつずつ増えていくような気配を感じます。また、こだわり抜いた素材からは本物の木のぬくもりを体感することができ、唯一無二の安らぎの場となっていくように感じます。床材には見た目の高級感、肌触り、経年変化から生まれる味わいなどを評価いただき DESIGN PREMIUM / BRUSH アッシュをご採用。ブラッシングを重ねる特別な加工を施した床材で、裸足で歩くと木目の凹凸をダイレクトに感じることができ、「気持ちよく温かみを感じる」とお客様からも喜んでいただいていること。アッシュの持つ爽やかな風合いが南欧から気持ちのいい風を送ってくれるような雰囲気です。

見た目の美しさに加え、触り心地や経年美という天然素材ならではの力がプラスされ住む人の心に「ゆとり」を生む豊かな暮らしの提案でした。



Select vol.14

関西住宅販売株式会社 モデルハウス
DESIGN PREMIUM / BRUSH アッシュ

手作りは
いかがですか？



大谷資料館

最近では映画「るろうに剣心」、「リアル鬼ごっこ」etc.の撮影にも使用されています。

編集後記



数年に一度はハマってしまう海外ドラマ。先日から「ストレイン」というドラマを観ています。ゾンビ化した吸血鬼と人類の存亡をかけて戦うSFサスペンス・アクションの超大作で、今シーズン2ですが、すでにシーズン5までの制作が決定しているそうです。ホラー系が大丈夫な人はぜひ！(西村)



初めて。大阪ショールームを担当しています、福田です。私は最近美味しい鰹節と出会い、手作りの出汁にハマっています。今では一番出汁でうどんやお味噌汁を作っています。そのため、日々鰹節について勉強中です。(福田)



先日ジャコ・バストリアスが在席したウェザーリポート最盛期といわれる時期のライブ音源を集めたCDが発売されました。実に素晴らしい内容で最近こればかり聴いています。そのせいか今回の「木と楽器」では、真っ先にジャコ・バストリアスの愛器ジャズベースが思い浮かびました。(相原)



「知つと豆知識」担当の田中です。大阪で生活を始めて10ヶ月が経ちました。最近は京都の社寺仏閣で拝顕できる仏像に魅せられ、様々なお寺を訪れています。中でも広隆寺の弥勒菩薩半跏思惟像、泉涌寺の楊貴妃觀音像は神秘的な美しさがあり、一見の価値有りですよ。(田中)



記事にある佐藤オオキさん率いるnendoデザインのメガネが発売されたと聞いて、冷やかし見学に行ったらその場で衝動買いしてしまいました。予定していなかったものが、ちょっとした動機付けて……おそるべし。税金やら保険の支払いが控えているというのに。でも結構気に入っています。(脇)

ご意見・ご質問・ご要望等がございましたら

info2@woodtec.co.jpまで

発行日 2016年3月15日
編集長 西村公孝
デザイン 鈴木信輔(ポールド)
イラスト 鈴木志穂 [P01・13・14]
西端 薫 [P21]
発行 朝日ウッドテック株式会社

【キュー】
cue

02



①去年の夏、自宅でチャバネゴキブリに遭遇する機会が増え、殺虫剤をよく使っていました。



②冷房をつけ、窓を閉めきった部屋でスプレーしていくふと「私も吸っているということ?」と不安になり、人体に安心なものは無いか調べてみました。



③すると、樹木や植物に含まれる天然の精油成分に、虫を寄せ付けない香りがあり、そのオイルを使った虫よけスプレーが手作りできるらしいのです。



④さつそく作ってみました。
「作り方」
スプレー容器に無水エタノール(5ml)と精油10滴を入れてよく混ぜあわせます。今回は夏ということで、ミントをセレクトしました。その後、精製水(45ml)を加えてよく振ります。あとは生ゴミ置き場やゴキブリを見かける場所にスプレーするだけ。



⑤数日後:
まずは精神的な不安から開放。そして日に日にゴキブリに会う頻度が減りました。外出の際はオイルと精製水のみのスプレーにして虫よけと冷却の二石二鳥です。



(文・福田)